

第2回仙台市農業施策基本方針検討委員会 議事の概要

日時：令和8年5月22日（火）

午前10時00分～午後12時10分

場所：仙台市役所表小路仮庁舎経済局作業室

1. 出席者

委員 6名（伊藤房雄委員長、相澤陽奈委員、郷古雅春委員、佐藤利永委員、
佐藤友佳委員、緩鹿泰子委員）（欠席1名）

事務局 7名

傍聴 0名

2. 概要

1. 開会

2. あいさつ

《農林部長》

3. 議事

(1) 仙台市農業施策基本方針の素案について
事務局（農林企画課長）

資料1

資料1により説明

【1. はじめに】

郷古委員

- ・農業資材の価格高騰だけではなく、「資材不足」や「供給不安」など現状を追記してはどうか。
- ・資材・肥料など海外からの輸入頼りから切り替えが必要で、手に入らなくなるという不安や課題を書き込めるとよい。

佐藤利永委員

- ・近年強風被害も増えている。農業共済で一部補てんされるが、市の支援があるとありがたい。

伊藤委員長

- ・国の新たな食料・農業・農村基本計画では「平時の」食料安全保障が意識されている。農業用水の確保、平均気温の上昇、資材確保などの現状を整理して追加してはどうか。
- ・資材確保や価格高騰なども、最終的にはヨーロッパ（フランス）の事例を参考にした価格転嫁できる取組みを目指せるとよい。
- ・ネイチャーポジティブの考え方を入れ、全体に繋がりを持たせるとよい。

事務局（農林企画課長）

- ・現状認識について、ご指摘を踏まえて文章に追記、補足する。

【2. 期間】

伊藤委員長

- ・和暦と西暦を併記してほしい。

【3. 目指す将来像】

伊藤委員長

- ・「稼げる」という表現はやや直接的な印象。他では「もうける」（主体的）、「もうかる」（受動的）を使う場合もある。他によい言葉がないか？
- ・「多様な担い手や人々」について、「担い手」は農林水産省では認定農業者を指すことが多いが、「多様な」で大小さまざまな農業者を対象としている印象を受ける。

郷古委員

- ・「人々」の射程がやや広い印象。どこまでをターゲットに含めているか？「地域農村の担い手」まで含めるのか？

事務局（農林企画課長）

- ・市民や関係人口など、幅広い方々が農業に関わることを想定している。

相澤委員

- ・「人々」は市民や消費者なども視野に入れている印象。農業はしていないが買い支えによって貢献する人々も意識していると思う。

伊藤委員長

- ・農業サポーターは生産を支える人々。ここでは市民、消費者、観光客やインバウンドの関係する人々を指すと思うため、適切な言葉がなければ用語解説で補足を。

郷古委員

- ・主語が分からないので、「人々“が”共創しながら」と修正するとよい。

伊藤委員長

- ・2025年の農林業センサスデータから傾向をまとめた資料があるので紹介したい。
- ・2025年では1件当たりの経営面積が増え、大規模経営体が増加している。例えば都府県データで2015年は10ha以上の農業者数は2%で面積が全体の27%くらいだったものが、10年後の2025年では農業者数が4%で面積が半分近くになっている。
- ・販売金額では1,000万円以下の経営体数は86%程度で売上高では全体の20%。1億円以上の件数は全体の1%程度だが、売上高のシェアでは30%を超えている。大規模経営体のカバー割合が増えている傾向がある。
- ・年齢別基幹的農業従事者数は、これまで最も数が多かった昭和一桁世代が引退して減少し、従事者数の山は低くなり、ピークの年齢層も上がってきている。一方で50歳以下の人数は一定数存在している。
- ・土地生産性と労働生産性の相関は、一時期の収量増加傾向から良食味生産に切り替わり土地生産性はピーク時より下がったが、人数の減少とともに労働生産性は年々向上している。

【4. 施策の柱】

- ・項目及びサブタイトルについて、修正意見なし。

伊藤委員長

- ・イメージ図は立体的な表現で、各柱が関連しあうような表現にできれば。

【(1) 経営体の確保・育成】

伊藤委員長

- ・【背景】で「労働環境の改善や所得の確保」とあるが、イメージしやすい具体的な内容の補足があるとよい。
- ・「持続的な農業経営を確立」か「持続的な農業経営体を確保」か、整理を。

郷古委員

- ・「稼げる都市農業」＝「経営力」だと思うが、経営力は「労働環境の改善や所得の確保」だけではない。限定的な表現ではなく、「等」を追加したほうがよい。

伊藤委員長

- ・企業参入は増えているか？

佐藤利永委員

- ・西部地区でいうと、2件ほど参入している事例がある。

伊藤委員長

- ・兼業農家から集落営農に関わっていた人が、気が付けば地域の農業法人になっているということが多いと思う。目指すは株式会社やNPO法人も含めて農業に関係がなかった企業が参入してくるということを考えている。

佐藤友佳委員

- ・石巻市の農福連携事例で、ホップ栽培とビール製造を就労継続支援B型施設が連携している事例がある。市内の就労支援施設からも要望はあるが、相談先が分からない。

伊藤委員長

- ・幅を持たせた表現にして対応を。

佐藤利永委員

- ・新規参入関係は多く記述があるが、既存の農業者に対する支援もここに入るか？

事務局（農林企画課長）

- ・方向性①に入ると考えている。

佐藤利永委員

- ・個人の農業者も孤立させないようなネットワークづくりが重要だと考えている。

郷古委員

- ・以前は4Hクラブや普及センター関係などあったが、確かに体制が弱くなってきている。

伊藤委員長

- ・そのあたりも含めて農村 RMO など、生産だけではないウェルビーイングの考えも重要になると思われる。考えるなら柱（3）か。

【(2) 生産基盤の強化】

郷古委員

- ・ネイチャーポジティブにも関係し、農業以外の分野も含まれるが「グリーンインフラ」の考えを方向性③に含めてはどうか。多面的機能とも近い関係にあると思う。

事務局（農林部長）

- ・市でも「みどりの基本計画」では「グリーンインフラ」を推進している。

伊藤委員長

- ・この柱は鳥獣害対策が全面にでていて、もちろん大事なキーワードだが、グリーンインフラも入れられたら良い。

【(3) 地域農業の持続的発展】

郷古委員

- ・市民との共創の肝として、農業者と消費者の強固な支えあいである CSA（地域支援型農業）に繋がるとよいと思う。

事務局（農林企画課長）

- ・現行では柱（4）に今後取り組む事業として掲載していたが、実現はしていなかった。継続して検討していく。

佐藤利永委員

- ・耕作放棄地の抑制と学童や市民農園を絡めた対策を検討してほしい。イノシシ対策にもなり有効な方法だと思うが、初期の耕地に戻す作業が大変なので、市の補助事業として対応してみてもどうか。

伊藤委員長

- ・耕作放棄地対策を方向性③に追記してはどうか。

事務局（農林企画課長）

- ・耕作放棄地対策として事業案を検討しており、主な事業でもお示ししたい。

緩鹿委員

- ・方向性②で、援農や農作業ボランティアを追加してほしい。

伊藤委員長

- ・方向性①で、環境保全米が目標か？もう一步踏み込んだ有機農業など、目標をどこに置くかを検討してほしい。

事務局（農業振興課長）

- ・市内で有機農業は事例が少なく、現実的などころで環境保全米とした。

伊藤委員長

- ・方向性②や方向性③でも市民と共創して仙台市の安全安心な農産物を積極的に支援していくという考えだと思う。
- ・有機農業もバリエーションが多い。ネイチャーポジティブな農産物で自分たちの暮らしが成り立っているという考えを、大人になっても当たり前に見えるような環境づくりを目指して関係団体と一体になって取り組むなど、もう一つ次の段階を目指している姿勢を検討してほしい。

郷古委員

- ・市民農園は増えているか？
- ・方向性③に記載するなら、市民農園整備促進法に沿って今後力を入れていく方法もあると思う。

事務局（農林企画課長）

- ・すべて把握しているわけではないが、栽培指導や自然農法・有機農法を取り入れた農園などが新たに開設されている。

伊藤委員長

- ・学童農園を増やす手もある。運営はNPO 法人が行うイメージだが、幼稚園や小中学校に畑が隣接し、収穫物を給食に利用したり保護者が購入したりする事業も一案かと思う。

事務局（農林企画課長）

- ・学童農園や市民農園についての支援案を大きく変えていく検討はしていなかったが、ご意見があった内容を踏まえて今後5年間の事業を検討していきたい。

【(4) 収益性の向上】

郷古委員

- ・実際に導入されているスマート農業技術はどういったものがあるか？

事務局（農業振興課長）

- ・市では水田輪作モデル構築事業で栽培実証をしながら、スマート農業機械導入支援事業で集落営農組織に対して助成している。導入機械では自動操舵や収量コンバイン等がある。農業用ドローンは一通り普及した感じはある。

伊藤委員長

- ・スマート農業はしっかりと利益確保できるか？

佐藤利永委員

- ・所属組織が水田輪作モデル事業の実証をしており、生産性向上や省力化にはつながると実感している。一方で機械が高額になるので、費用をカバーするにはどのくらい生産性等を向上させる必要があるのかと感じる部分もある。

伊藤委員長

- ・スマート農業機械に限らず、大型投資は採算をとるために稼働率を高め、利用の仕方を考えて経費の負担を軽減していく必要がある。

緩鹿委員

- ・方向性④の「食品業」という表記について、一般では「食品産業」や「食産業」と表記される。食品製造業や外食、卸売業など、どこまでの業種を含めるか整理のうえ、修正願いたい。

伊藤委員長

- ・「食品製造業や関連流通業などの食品産業」はといった表現はどうだろうか。

【●目指す将来の主要指標】

事務局（農林企画課長）

- ・具体の指標は次回第3回検討委員会で示す予定。

伊藤委員長

- ・指標の活用方法はいかがか？中間年での確認や第3者機関含めた進捗管理があってもよいと思う。

事務局（農林企画課長）

- ・点検方法についても今後検討したい。

【5. 推進体制】

佐藤友佳委員

- ・本基本方針の記載内容ではないが、本委員会の開催を農政だよりに掲載しているように、「とれたて仙台」のInstagramでも発信してはどうか。

郷古委員

- ・本方針を享受する人々や共創していくという意味では、「消費者団体」なども関係する組織にいれてもよいかもしれない。

伊藤委員長

- ・方針のとりまとめは農林企画課になると思うが市職員は部署異動があるので、そういう意味では、様々な人を絡めた活動・企画実行部隊（専門委員会）を作って、集まれる場づくりを設けてもよいと考えている。

事務局（農林企画課長）

- ・消費者団体の委員を含めた仙台市農政推進協議会で、年1～2回協議の場はある。
- ・伊藤委員長のお話は、もっと身近な人々がフランクに話せる場という意図だと思うので、そういったことも検討したい。

伊藤委員長

- ・仙台市農政推進協議会は各組織の代表として参加し、時間も限られるので、その会議とは別で、単年毎の事業や2～3年スパンの企画、若い世代に検討してもらえる場づくりなど期待したい。

【全般】

伊藤委員長

- ・本基本方針の素案は良くまとまっていると思う一方で、仙台市の特徴を出せたらもっと良くなると思う。例えば市民共創について10年～20年計画での理想像に向けてこの5年間で前倒して何をやるか、目玉事業をどこに置かなどが見える

とよりよくなる。

佐藤利永委員

・推進体制のところ、たまに宮城県の村井知事がラジオで発言しているが、例えば郡市長が本基本方針の内容をラジオでPRするなどがあれば、もっと多くの人に知ってもらえるきっかけになると思う。

佐藤友佳委員

・先ほど伊藤委員長からあったような、農業者、仙台市、消費者などいろいろな人が集まり、市内農産物を集めた料理を囲みながら、仙台の農を考える場などがあれば、いいアイデアが出そうだなと感じた。

緩鹿委員

・世界情勢が変わる中でこのような施策づくりも大変だと実感した。
・これからの担い手だけではなく今の担い手も守りつつ、さらに担い手を増やしながらか生産基盤を整え、いろいろな関わり合いを増やして協力する流れができればよいと感じた。

相澤委員

・4ページのイメージ図が、都市農業やグリーンインフラ、市民とともに作っていくことが一目でわかるようなイラストになるとより良いので、検討してほしい。

郷古委員

・伊藤委員長と同じ感想だが、仙台市の多様なところが良くまとまっていると思う一方で、仙台市らしさ、「こういうことをしていきたい」という面をもっとだしてもよいと思う。

・持続性を考えたときに、以下の3つの視点が大事である。

- ①クオリティとしての地域らしさ
- ②計画内に自動的に次世代育成が含まれている
- ③新しい社会デザインの意識

・スマート農業などのキーワードは意識されているが、もっと普及や取り組みやすくするための方法はないかを個人としても考えている。

・できないかもしれないがやってみるといった内容を入れ込んでもよいと思う。

伊藤委員長（東京農業大学国際食料情報学部教授）

・次回第3回検討委員会は6月30日で、主な事業や指標を入れた案の検討を行う。

・追加での意見や質問があれば、1週間以内くらいを目途に事務局まで連絡を。

⇒全員了承

4. 閉 会

以上